

(別紙)

## 全国学力・学習状況調査において特徴ある結果を示した学校の取組

東部教育事務所

### (1) 管理職のリーダーシップと同僚性の構築

- 「**チーム〇〇〇〇**」を合い言葉に全教職員で学校課題の解決を行っている。
- 「**〇〇〇〇チーム**」で学力向上・授業改善策を提案、「**〇〇〇〇チーム**」でいじめ防止対策や生徒指導・健康安全教育の対策を提案している。
- **人事評価制度との関連**を図り、学校経営の重点の一つである授業改善に関する目標を定め、一人一人の教員が年間を通して、学力向上や授業改善を常に意識して取り組むようにしている。
- 教務主任が自習を発生させないよう時数調整している。
- **全職員（町職を含む）**が放課後補習や毎日15分間のドリル学習に参加している。
- 指導内容や指導方法について、**全職員（町職を含む）**の意見を集約し、改善を図っている。
- 学力向上委員会（部会・全体会）を定期的に開催している。また、学力向上通信の発行等を着実にを行い、各教員の意識を高め、取組の共通理解を図るとともに、**保護者に対する発信**も行っている。
- 授業中の**交流活動**をテーマに研修を行っている。
- **先進校への視察**を行い、それを他の職員へ報告している。
- 経営方針の学校経営の充実の中に、高学年を中心とした**教科担当制**を取り入れ、専門性を生かした教員の指導力の向上を目指している。
- 職員室では何でも話ができる**風通しの良い雰囲気**があり、教科指導の悩みや具体的な改善策などを自然に話し合っている様子が見られる。
- 校内研修主任を中心に、模擬授業やミニ講座を通して、**教員同士が学び合う環境づくり**に努めている。
- 児童の実態や現状の情報交換はもちろん、**復命や校内教諭が講師となつての研修**、さらには経験者から若手への術や技の伝授などを推進している。全体研修として実施しているだけでなく、低中高学年ブロックや学年単位、さらには放課後などに、学年をこえて話す中で示唆や助言があるなど、日常化されている。

### (2) 実践的な教員研修

- 年度当初に、算数の提案授業を前年度の研修主任が行い、「**算数の授業の流れ（〇小スタイル）**」を確認し、全学級が同一步調で授業が行えるようにしている。
- フレッシュチームを中心に必要感、困り感のある課題を**資質向上研修**で取り上げている。
- 夏休み中に一人一人の教員が得意とする技を伝達する「**ちょいプラ**」研修（**ちょっとプラスになる研修**）を実施している。
- 校内研修で実践を積んだ学び合い活動を、教科の授業だけでなく、**特別活動や学校行事の場にも広げている**。
- 指導力の高い教員が**示範授業**を行っている。
- 年度当初に「めあての確認、個から集団への課題解決場面の設定、まとめと振り返り」という流れの授業過程を基本とした授業の進め方を**全教員で共通理解**し、実践している。

- **教員同士による模擬授業研修**を行っている。
- 校内研修では、「授業づくり」に関することを『**はばプラ**』を活用しながら行い、教員の指導力を高めている。
- 総合教育センターの指導主事に「**授業づくり**」について講義していただいた。
- 各教科とも「**はばたく群馬の指導プラン**」を基にした**課題解決型の学習スタイル**を実践し、児童が課題をつかみ、見通しをもって学習に取り組む姿勢を育てている。
- OJTを意識し、お互い自由に授業を参観し合える「**授業参観スタンプラリー**」というシステムをとっている。
- 「**自己研修課題**」を設定し、授業改善を行っている。
- **学年や低中高学年ブロック**で転入教員に対して、このように授業をするとよいという示唆や伝授などを目的とした研修を実施している。
- テーマから各々教員が課題をもって「**個人研究構想表**」を作成し、個人研究的に臨んでいる。
- 教育課程他、**指導に関係する出張報告（復命）は必ず実施**し、全職員での情報共有を常に行っている。
- 道徳教育に関する校内研修を計画的・組織的に実践している。その際に一年次にバズセッションや発表の仕方など**話合いの仕方を中心としたスキル学習を実践**した。教師の発問に対して、子供たちが積極的に考え、議論する授業の土壌が確立されつつある。

### (3) 言語に関する授業規律や学習規律の徹底

- **自分の考えを相手にわかりやすく伝える活動**を意図的に設定している。
- 「**家庭学習の手引き**」（保護者用）と「**学習の手引き**」（児童用）を配布している。「各学年で身につけたい力」や「家庭学習のポイント」を具体的に分かりやすく示したリーフレットを配布している（毎年、内容を見直している）。
- どの教科においても、**ペアで自分の考えを伝える場面**を多く取り入れて、自分の考えを表現させている。
- 他学年との合同授業を意図的に設定しているため、**話合いのルールを上級生が下級生に指導**する場面もある。
- 話合い活動においては**司会や記録、発表者などの役割を多く経験**できるようになっており、結果として目的に応じた効果的な話合いが行われるようになっている。
- 学習のきまりを決めている。「**準備**」「**姿勢**」「**書く**」「**聞く**」「**話す**」
- **学習計画を教室の前面等に掲示**し、学習の見通しを持たせている。
- 週末に**作文の宿題**を出したり、朝行事の時間に毎週**作文タイム**を設定したりしている。
- **自分の考え（答え）とその理由を言うことの習慣化**を図りながら、学習を進めている。そのことは、複数の考えや反対の考えをスムーズに出し合い、よい考えを精査することにもつながっている。
- 各学年とも、間違いを恐れず積極的に授業に参加できるような環境を作るようにしている。チャイム着席も徹底しており、授業を行う教師は、**必ずチャイムと同時に授業をスタート**させている。
- 校内研修で、算数については、**根拠、事実、結論という発表（説明）の仕方の雛形**を示し、授業で繰り返し児童が説明できるよう実践を重ねている。国語では、叙述を根拠として説明さ

せている。

- 授業中指名されたら返事をする事、話すときは相手の目を見て、はっきりと大きな声で話すこと、聞くときは注意して聞くことなどを徹底している。特に英語・外国語活動では、"Eye contact", "Clear Voice", "Listen Carefully", "Gesture"を「Happy Talk」と名付け、全校で意識するとともに、相手の話に反応しながら会話を続ける「Happy Talk Plus」に取り組んでいる。**英語・外国語活動で行っていることを他教科にも広げている。**
- 特に、算数において、**ペア、グループ、学級全体での比較・検討の場を設定し**、教師の発問や言葉がけについて研修をしており、教員それぞれが他教科にも波及させつつある。

#### **(4) 基礎基本の定着の重視、少人数指導、少人数学級**

- 国語では、各学年、**辞書引きの機会**を意図的に多く設けている。
- 毎日給食後 10 分間の**スキルアップタイム**で基礎・基本の定着（算数はアイテムの活用）を図っている。
- 1 単位時間内に「**決められた部分まで終わらせなければならない意識**」を教員がもち、指導にあたっている。
- 算数の授業に必要なものやプリントは**算数専科教員**が用意している。
- 5 年の算数の内容でのつまづきを出ないように、**算数専科教員**が授業進度について計画を立てている。
- 県の**評価資料集 I II**を活用テストとして利用している。
- 国語の漢字、数学の計算、英語の単語等は、**定期的に小テストを実施**し、できるまで繰り返し再テストを受けさせたり、補習授業を実施したりしている。
- **少人数学級である利点**を生かし、基本的に発表は全員が行い、お互いに聞き合い評価し合う場面を設定している。
- **全学年で教材を統一**して、毎日 15 分間のドリル学習を行っている。
- 特に算数指導においては、4・5・6 学年で、1 学級を 2 名の教師と教育活動支援員（市費）の**計 3 名できめ細かな指導**をしている。
- 社会では、**毎時間課題解決的な学習**に取り組み、資料の活用を大事にしながら思考力・表現力の育成に力を入れて指導している。
- 学校全体の決め事として、授業では**必ずめあてを明確に設定し、最後に振り返りの場面を設ける**ようにしている。
- 数学の授業では、毎時間**既習事項の復習（ミニプリント）**を授業準備の時間に行い、チャイムと同時に本時の学習内容に入るようにしている。
- 毎時間、授業の最後に、負担にならない分量の宿題を出し、**家庭でも必ず教科書やノートを広げるようにさせ**、常に数学に触れる機会を設けている。
- 毎日の校時表に「**基礎練習の時間**」（13:50 ～ 14:05）を設定し、漢字力や計算力を高めるためドリルを行ったり、低位児童への支援を行ったり、さらには適用問題の習熟を図ったりしている。
- 国語・数学・英語においては**豆テストや計算練習・単語練習などを授業の帯活動として意識的に実践**している。また、家庭学習においても自主勉強と称してノートを提出させ、すぐに返却するようにしている。

#### (5) 小中連携教育

- 管内の小学校と**図書館教育の連携**を図っている。
- 中学校の先生を講師にした**絵画指導の講習**を行っている。
- 9カ年での児童生徒の成長を考え、小学校でも中学校の**学び合い活動を意識しながら表現力向上のための取組**を行っている。
- 中学校区での小中連携組織（夢プロジェクト）を活用し、児童・生徒の学力の実態、学習習慣づくりや授業改善についての話し合いを行い、**9年間を見通した指導**を行っている。
- 指導主事訪問等の際に、必要に応じて**相互の授業参観**を行っている。
- 小学校と連携して「〇〇っ子の約束 小・中9年間の生活・学習のルール」を作成し、生活面や学習面で**義務教育9年間一環した指導**が行えるようにしている。
- 市教委から毎年配付される「**授業改善推進プラン**」には、各教科において、小・中学校共通の課題と解決に向けた取組が細かく示されており、それをもとに各教科で小・中学校の系統性を踏まえた指導を心がけている。

#### (6) 学力調査の活用

- 「**2学期以降取り組むこと**」を教室に掲示し、日々の指導に生かせるようにしている。
- 2学期以降の授業改善のポイントを全教職員で共通理解し、授業で実践している。そして気付いた点を**週案にメモし、工夫や改善点を学期末に教職員で共有**している。
- 定期テストでは、全国学力・学習状況調査のB問題を意識し、**記述式の設問を意図的に出題**するなどしている。
- テスト返却時には**個別に指導する場面**を設け、生徒に振り返りをさせている。
- 改善策を2学期からの授業実践に生かすとともに、**家庭にも分析結果を伝え、連携した取組**を行っている。
- 評価資料集を印刷し、**前ページの答えを次の問題プリントの表裏で印刷して家庭学習で取り組ませている**。前日の答え合わせと直しを自分でもできるようにして量をこなせるようにしたことを書くことへの慣れが進んでいる。
- 全国学力・学習状況調査の結果を**8月中旬に分析**し、本校生徒の回答傾向や各教科の得意分野・不得意分野を明らかにしている。その内容を**9月の職員会議で全職員に周知**し、改善に向けて取り組むべき課題を職員全体で明らかにするとともに、今後の指導に役立てるようにしている。
- 1月下旬に標準学力テストを全学年で実施し、**年度末に児童の実態と考察をまとめ、翌年度初めに校内研修で確認する場**を設けている。学習を進める上での指導課題や子供のつまずくところが分かり、対策を考えた指導につなげている。

#### (7) 家庭学習の指導

- 学校で統一した『**家庭学習カード**』を利用している。
- **家庭学習がんばり週間（年間5回）**を設定している。
- 「**家庭学習がんばりカード**」を作成し、その中で各学年の目標学習時間を設定し、コメント

を記入し（教師・保護者）、家庭との連携（めあての記入、寝る時刻の記入）を図っている。

- 宿題は、①音読、②漢字練習、③算数くりかえしドリルかプリント、④週末の意味調べを共通して行っている。
- 漢字学習については、①熟語（スキルの右、左）、②熟語を活用した文作り、③テスト形式の3パターンの課題を出すことで、活用力が伸びてきている。
- 算数プリントは、①前学年や既習事項の復習、②現在の学習単元を両面にして常に復習を取り入れている。
- 長期休み用のドリルの中の問題を再度印刷して課題として出すなど、同じ問題に何回も取り組ませて基礎学力の定着を図っている。
- 間違えた問題のやり直しの徹底を図っている。
- 家庭学習強化週間を設定している（同じ学区の中学校のテスト勉強期間に合わせて）。
- 「学習の手引き」を基に学年ごとに児童の実態に応じた宿題を毎日出すとともに、教員が取組状況を確認し、一人一人にフィードバックしている。
- テスト等で間違えた問題の直しを、その日もしくは次の日のうちに取り組ませている。
- 自主学習を推奨し、モデルとなるようなノートは「優秀ノートコーナー」で紹介している。
- 定期テストに向けて「学習計画記録表」を作成し、テストに向けて見直しをもって学習計画を立てさせたり学習時間を記録させたりしている。
- 『家庭学習の手引き』を新年度に配布し、学習方法を指導している。さらに、定期テスト前に「チャレンジ50」（家庭学習を2週間で50時間）、「アウトメディア」（メディアから離れた生活）を行い、家庭学習の啓発と指導を行っている。
- 新聞を活用した気になるニュース調べ（1週間に1回）に取り組み、社会のニュースや出来事に関心を持たせている。
- プリントだけでなく、学習内容を記録したノートを生かした家庭学習に取り組ませた（算数では問題文へのアンダーライン、図、説明、式など）。
- 教科の特性も加味しつつ、普段の勉強の予習や復習の仕方、あるいはテスト勉強の仕方について、各学年で年度当初に細かく指導している。また、保護者会でも必ず同じような話をするとともに、家庭での協力が得られるようお願いをしている。
- 自学ノートは、ページ数ではなく、回数でカウントし、学習感想を書かせるようにしている。そのことでお互いの良さを見つけ合い、学級の雰囲気良くなることで、お互いに教え合うことが当たり前になってきている。
- 「〇〇小家庭学習のすすめ」を1学年保護者に配布し、6年間を見通した家庭学習の大切さを伝えている。また、宿題4点セットとして、音読、漢字練習、算数（計算スキルやプリントなど）、自学（児童自身がやりたい学習）を毎日の課題としている。
- 週に一度、自主学習ノートを提出させ、家庭での学習習慣を身に付けさせている。さらに10分程度でできる基礎力養成のプリントを配布し家庭学習の手引きとしている。

#### (8) 放課後や夏季休業中の補習

- 3～6年生は、週2回（火・金）の放課後学習の時間（15:45～16:00）を設け、個別学習を行っている。2年生は、週1回（水）の放課後学習（14:55～15:10）を行っている。
- 放課後学習を年間13～14回（水曜日）15:30～16:10、3年生から6年生までの児童を対象

に行っている。

- **夏季休業中の補習**を中学3年生については原則毎日2時間実施している。
- 自習形式であるが、教諭が同席し、指導に当たっている。放課後の補習については、**曜日により教科を定め、担当が同席**し質問・疑問への対応および指導を行っている。
- **放課後に補充指導**を行っている（4～6年：週2回、3年：週1回／国語・算数）。
- **夏季休業中に学習会**を行っている（各学年、8日間、1日1時間）。
- 「**〇〇塾**」という名称の補習体制を整え、放課後学習会やテスト前学習会（質問会）、夏休み学習会（補習と自習）を行っている。
- **家庭での学習が困難なことが予想される生徒**については、放課後や長期休業等を利用して学校で課題に取り組みさせるようにしている。
- **家庭訪問期間中**に、学習の心配な児童に対して担外（支援員等）が個別指導を行っている。
- 夏季休業中に、1学期の学習内容の定着が不十分な児童を中心に**サマースクールを実施**している。

#### (9) その他

- 給食終了後10分間の学習タイム（「**ちりつもタイム**」）を校時表に位置づけている。
- 5年生では、2学期以降、「**ちりつもタイム**」で**評価資料集**にも取り組んでいる。
- **寺子屋プリント**は、プレイルーム（管理棟1階）に全学年分の復習プリントの棚を設置し、いつでも、好きな枚数を持ち帰り、ちりつもタイムや自主勉強に活用している。
- 校舎内に「**学力を向上させる**」「**学習の関心を高める**」「**仲間意識を高める**」ための掲示を工夫している。
- **テスト・宿題の間違い直しの徹底**（宿題の間違い等は付箋を貼ってチェックし、付箋の状態のままになっていないようにする。〔教師〕）を図っている。
- 「**間違い直しはその日のうちに、必ず!**」という学年団の教師の意識のもと、学習指導を継続している。
- **読書活動の推進**（読書月間の取組、教師・保護者からの「お薦めの本」の紹介、PTA 読み聞かせ活動との連携等）を図っている。
- 低学年からの「**人を排除しない集団づくり**」を大切にしている。
- 毎学期末に行っている「**漢字・計算大会**」に向けて、計画的に課題を出し、家庭の協力を得ながら児童が既習の知識・技能を習得できるようにしている。
- **群馬大学理工学部と連携**し、定期的に放課後等に理科塾を開催し、科学の甲子園ジュニア対策や自由研究の支援を行っている。
- 5, 6年生で「**情報ノート**」に取り組んだ。新聞記事を一つ選び、内容を要約し、それに対して意見を書くことを繰り返している。